

## 長久保赤水の天満宮参詣

長久保赤水是、江戸時代の地理学者です。享保2年（1717年）、常陸国（茨城県）に生まれ、日本の地理について学ぶために全国を旅して歩きました。そして、安永4年（1775年）、20数年かけて、国内で初めて緯線と方角線が引かれた「改正日本輿地路程全図」（通称「赤水図」）という日本図を作製しました。この地図は、伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の完成より42年も前に刊行され、一時代を画しました。

赤水是、明和4年（1767年）に、安南国（ベトナム）へ漂流し帰還した漂流民を引き取りに長崎まで旅しています。この旅は往復112日にもおよぶ長期のもので、その旅の記録を『長崎行役日記』という紀行文にまとめられています。記述は地理、習俗、歴史、古跡、神社、仏閣など多岐にわたっています。太宰府へは長崎へ行く途中の10月8日に立ち寄っており、当時の様子を詳細に記しています。それによると、天満宮の境内には、石鳥居や石橋、仁王門、別殿、東西の法華堂、薬師堂、浮殿、中門、回廊、本社、神楽堂、鐘楼などがあり、本社の前、左に飛梅、右に一夜松を柵で囲ったとあります。また、心字池に架かる三橋をわたると、付近には老楠木が数本あるとされています。

社地は古の安楽寺で、近年は延寿

## 太宰府人物志

資料室だより③

王院と称しており、祭礼は2月・8月の23〜28日に行われ、梅の守は梅の種に経文を書いたもので、霊験あらたかで人々は信仰しているとあります。また、宿願のある者は連歌の会を催して奉納したことや、その代金が明記されており興味深い記述も数多くみられます。

このほか、天満宮の社家についても、若干の誤りがありますが詳細な記述がなされています。僧坊が56院、三つの大宮司、八つの禰宜があり、座主は大鳥居信歆（信貫の誤り）であることや、三役僧として檢校坊・勾当坊・満盛院があり一切の社務をとりしきっていること、三大宮司は小野伊勢（伊予の誤り）・但馬・加賀が祭礼を司ったとされています。

また、宰府から1里ほど東に観世音寺、戒壇院、国分寺がみな宰府村内にあり、訪れはしなかつたものの、観世音寺の西に都府楼跡があつて、その大門の礎の直径が六尺であつたと記されています。

『長崎行役日記』に記された太宰府の様子は、遠山景晋や伊能忠敬が記した様子と、重なる部分が多く非常に似通っています。そして、滞在期間が1日程度だったことを考えると、ここまで詳細な情報を記すことができたということは、当時、既に太宰府に関するガイドブックやガイドが存在していたのかもしれない。

市史資料室 矢野 健太郎